

【本井晴信氏収集文書 解題】

- ・本道村文書 1461
- ・下百々村文書 1462
- ・中島村文書 1463
- ・宮口村文書 1464
- ・上広田村文書 1466
- ・小谷島村文書 1467
- ・手島村文書 1468
- ・角取村文書 1469
- ・吉野村文書 1470
- ・中小町商家文書 1478
- ・本井晴信氏収集諸家文書 1485 ※数字は資料群番号

元新潟県立文書館副館長の本井晴信氏が収集した文書群である。本井氏は、文書の散逸を危惧し、古書店等に流出していた旧越後国頸城郡関連の文書を自費で購入していた。そのため、各文書の旧蔵者や伝来等の詳細は不明である。

〔下百々村文書 資料群番号 1462〕

上越市下百々（旧上美守郷百々村）に伝えられた 850 点余りの文書群である。旧蔵者は不明であるが、庄屋文書もしくは村役人文書であると考えられる。「百々（どうどう）」の地名は川の流れの音を語源とするとされ、新潟県内にも他に何か所か存在する。頸城郡内にも百々村（現妙高市上百々）があったことから、明治 22 年（1889）の市町村制施行に際し、下百々という字名がつけられた。

百々の地名からもわかるように、かつては飯田川の氾濫に悩まされた集落であったことがうかがわれ、洪水・満水・川欠などに伴う被害の届けと減免願い、堤防等の決壊と修繕に関する文書、流された土橋の修繕に関する文書等が多数残されている。百々村は、岡木溜・百々溜という溜池を主たる農業用水としており、杭打の位置などをめぐる水争いの文書も数多く含まれる。

百々村には、飯田川を利用して今町湊への廻米を津出しする郷蔵が建てられており、それに関連する文書も残されている。嘉永 7 年（1854）の「百々岸泊米囤蔵企帳」〔資料番号 1462-96-1〕は、廻米の津出に際して新たに「岸蔵」を建設したい旨の願い出であり、同じ嘉永 7 年の「溜守給米并稲番給米割賦帳」〔資料番号 1462-100-1〕は、岡木溜と郷蔵の稲の番に対する給付米徴取の割り付け記録である。いずれも近世の近隣村々の年貢納入や溜池管理の現場がわかる資料である。

その他の興味深い資料として下記の資料を挙げるができる。

- ・安政 2 年（1885）「上野田村庄屋願書」〔資料番号 1462-101-1〕は、異国船防御の観点から直江津今町の関川に架橋することを願い出た文書で、当時の世相を色濃く反映している。
- ・万延元年（1860）「高田藩預所からの私領領知替反対の 31 か村嘆願書」〔資料番号 1462-104-1～2、1462-105-1～18〕は、幕領高田藩預地から間部下総守家への領知替に反対する一揆が、江戸での籠訴を企てるなど、村々が連合した経緯がよく示されている資料である。
- ・明治 23 年（1890）「保倉村からの南部 5 村独立運動関連書類」〔資料番号 1462-282-1～1462-286-1、1462-430-1～19〕は、保倉村南部 5 字（小泉・駒林・下百々・長岡・長岡新田）が、町村制施行後に起こした保倉村からの独立請願運動を詳細に記録する。